

# 福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2  
都立・第五福竜丸展示館内  
電話 (521) 8494

## 第五福竜丸との出会い

沼田 稻次郎

一九七六(昭和五一年)年六月に第五福竜丸展示館(都立)が開館されてから、八〇万人あまりの人々が館を訪ねた。個人やさまざまな団体が訪ねているが、わけても小・中・高校生の集団的な見学が多い。生徒に第五福竜丸を見せようとした教師たちに私は敬意を表したい。船を見るということは、ビキニ環礁で行われた水爆実験の非道性を知ることであり、核兵器の惨虐な人間破壊力に対する恐怖と呪詛とを覚え、あらためて平和と人間の尊厳の理念を確認せざるをえないことになる。展示館に来た青少年の何割かは、第五福竜丸の語りかけているものを心底に刻みこんで生涯の糧とするであろう。そして、彼らが、反核・平和の運動に参加する時期が来たならば、彼らはもう一度、第五福竜丸と深い出会いをすることになるのだ。

今年、ビキニ水爆実験の三十四周年にあたる。それは一九五四年三月一日であり、その年の九月二三日に無線長であった久保山愛吉さんが放射能被曝のため亡くなられた。ビキニ島の住民

たちも強制移住させられていたロンゲラップその他の島々の住民はもとより大量に殺傷された。この人たちの三十四回忌でもある。おそらく今四十才代までの人々は、ビキニ水爆実験のニュースの衝撃をぢかには知らないだろうが、実にそれは日本も世界も震撼したのであった。そのニュースは、私が拙著「団結論擁護論」の再版に序文を書くこととしていたときに知った。

「最近の最も悲惨な重くするしい事件は何といっても邦人漁夫のビキニ遭難事件である。目下国会において損害賠償の要求をめぐって論議せられている。だが問題は……明らかに世界法廷における重罪と断ずべき事件の本質に関することではなければならない。」などと一頁(A5版)余りにわたって憤慨の文章を書いている。そして「この時ほど、遅かれ早かれ賭けねばならぬ生涯、についてしみじみと感じたことはないのである。」と結んでいる。そのとき私は「第五福竜丸」に出会っていたのだと今、思いかえしている。

ビキニ水爆実験は世界的に核兵器の

(元都立大学総長、第五福竜丸平和協合理事)



## 第五福竜丸をとらえる……

作品紹介②  
ロバート・キャパ

ハンガリー生まれの世界的報道写真家、ロバート・キャパ(一九

日本各地をまわり、その作品はまもなく創刊される「カメラ毎日」(六月創刊)の紙面を飾ることになっていった。そして七月号に、日本の第一印象として、最初の作品が掲載された。その中に「焼津の漁師」という作品がある。



「帝国ホテルのバーで英字新聞を見ていたら、原子灰の焼津がいまだに大きな記事になっているので、矢もたてもたまらなくなりました。キョウトも、ナラも自分が見たい。しかし、キョウトも、ナラも外国人の興味をひく対象は何千年来動かないものだ。ヤイズは違う。時々刻々動いている。こう話している間にも新しい船が帰って来るかもしれない」「カメラ毎日」54・7月号より)——キャパは、「焼津の漁夫(「カメラ毎日」一九五四年七月号より)



キャパの名を一躍世界に知らしめた「敵弾に倒れる共和政府義勇兵」(スペイン・1936年)

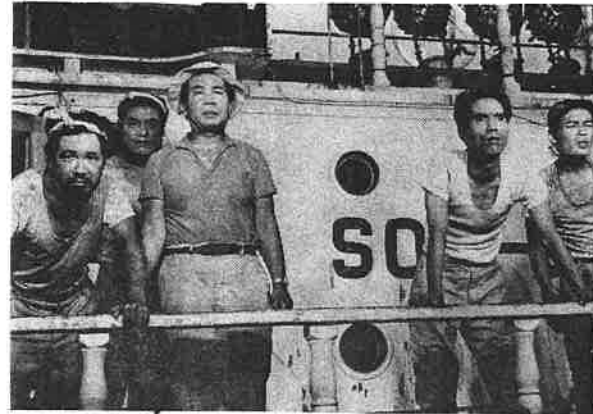
訪日一番、それも予定を変更して焼津に出かけたのだった。

だが、キャパの日本での滞在もライフ誌の依頼で、ディエンピエソンの取材に向かうため中断されてしまう。メーデー取材後、離日する。そして、翌日は再び日本に戻る予定であった五月二五日、ハイフォン南方タイピン地区で撮影中に地雷にふれ死亡する。四十一歳であった。日本での作品の中には、彼の代表作となるものはない。キャパは、戦場の中でもっとも彼らしい作品を残した。だが、焼津行もインドシナ行も共に、彼の報道写真家としての選択であった。



一月十五日、恒例の新春たこあげ大会(第16回)が協会主催・東京都後援により夢の島公園で開かれました。地元の小中学生のほか団地の学童クラブ、千葉のコープせいきょうのお母さん子どもたち約二百名が参加。江戸川風愛好会、反核経営者の会の人々も多数加わりました。優勝は、世界に平和をの自慢のたこを揚げた南陽小学校二年生の山崎せつみ君。今年始めて贈られることになった「地球儀」を受取つて、ばんざい。新日本出版社・小学館などから贈られた本もみんなが受取り、大会後、展示館で船を見、記念撮影もしました。

スペイン市民戦争、日中戦争、世界大戦と戦争を撮り続けたキャパ。その作品は戦争の悲惨さを訴えながら、やさしさがあふれている。オレは一生失業した戦争写真家でいたんだ」と言い続けたキャパ。自伝『ちよっとピンぼけ』は、現在もお若きカメラマンに読みつがれている。(S)



映画「第五福竜丸」を撮るとき、久保山愛吉さんには重ちゃん(宇野重吉)がいいと思っていたが、そのとき重ちゃんは劇団民芸の芝居にとりかかるところだった。映画「第五福竜丸」で、久保山さんを演じる宇野重吉氏(右より二人目)

### 第五福竜丸の重ちゃん

新藤 兼人 (映画監督)

映画「第五福竜丸」を撮るとき、久保山愛吉さんには重ちゃん(宇野重吉)がいいと思っていたが、そのとき重ちゃんは劇団民芸の芝居にとりかかるところだった。

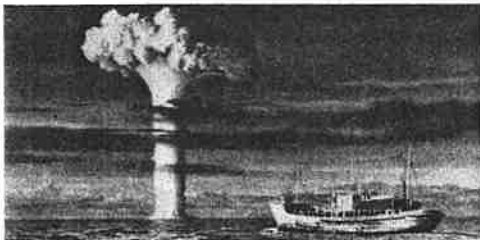
そんな事情は承知のうえで、重ちゃんにたのむと、よろしい、と一声いったきりで、民芸との調整をととのえてくれた。

ビキニ環礁で第五福竜丸が死の灰をかぶったのは昭和二十九年三月で、わたしたちが映画を作ったのは四年後の昭和三十三年のことである。フイクションを混えないでドラマを作りたいと思ったので、長期焼津へ腰をすえてロケをした。焼津港に、ちょうど第五福竜丸と同じ型のマグロ船がいた。持主が行方不明になったということで、船長と機関長が二人で船を占拠して寝泊りしていた。二人はカネをもらわなければ九州へ帰れないといっている、船主の現われるのを待っているのだった。

撮影隊はこの船と契約して、第五福竜丸に仕立てた。船長も機関長もいるし、あとは油を買いさえすればいい。焼津港の人に聞くとこの船は、実物の第五福竜丸とトン数までそっくりということだっ

た。雲隠れした船主に代ってわたしたちがギヤラを払うことになるのである。この船に「第五福竜丸」と銘名し、焼津沖へ出ては撮影をした。一時間も沖へ出ればもうどちらを向いても海原である。久保山愛吉さんは亡くなったが、ほかの乗組員はみな健在で焼津に居住されていたので、撮影はこの人たちの指導を受けて撮り進んだ。久保山さんの家は、そのままロケセットに使わせてもらった。重ちゃんは早くマグロ船の無線技師にとけこんでいった。この人は生活感をつかむのが早い。撮影初日から海の男になりきっていた。第五福竜丸の乗組員は、死の灰をかぶって帰ると、東大と厚生省系の病院に分けられるのだが、久保山さんは厚生省系の第一病院に移され、九月二十三日に亡くなった。二十三名の乗組員中た一人の犠牲者である。死の灰をかぶってから久保山さんの死まで、記録をたどって忠実に再現するつもりである。

だが記録映画ではない、ドラマである、役者が演じるのだ、このことよって、記録映画の限界と



一九七六年のはじめ、国連経済社会理事会(ECOSOC)の諮問機関、国際平和ビューロー(IPB)の加盟団体は、ジュネーブのNGO(非政府機関)軍縮特別委員会で、次の決議をしました。「広島、長崎の被爆者の苦痛、子孫への影響調査のため、国連の主催、世界保健機関(WHO)の協力で、国際シンポジウムを開くこと」。この構想に基づき、国連、WHO、UNESCO等の支持を得て、約四〇の国際NGOが主催し、日本で「被爆の実相とその後遺、被爆者の実情に関する国際シンポジウム(略称ISDA)を開くことになりました。準備委員会は一九七六年十二月に発足、シンポジウムは東京、広島、長崎で、期間は翌年七月二十一日から八月六日までと決めました。

準備委員会の委員長に私、事務局長には川崎昭一郎さんが委嘱され、私は各国の団体、個人にあてて、千枚以上の招請状に署名をしました。国際団体からは、国際準備委員会議長、アース・プース(英)、三人のノーベル賞受賞者、ノエル・ペーカー卿(英)、ジョン・マクブライト(アイルランド)、ジョージ・ウォールド(米)のほか、東西二十二か国、六十九名の著名な学者、政治家、平和問題研究者が参加しました。被爆の実相調査には全国で、三千人にも達する有志の協力が得られました。そのころの我が国では、まだ国際NGOに対応する組織がありませんでした。私たちは新村猛先生たちにお願ひし、全国各地域婦人団体連絡協議会(地婦連)、日本生活協同組合連合会(日生活)、日本青年団協議会(日青協)、日本宗教者平和協議会(宗平協)、日本原水爆被害者団体協議会(被団協)、YMCA、YWCA等の約六〇の有力団体に、参加と協力を呼びかけてもらいました。

「議長ならば、ご出席の皆さん。日本準備委員会を代表して挨拶いたします。国際NGO諸団体主催の本シンポジウム開催の呼びかけに応じ、準備委員会が発足したのは、昨年十二月でした。以来わずか半年余り、多くの団体と個人の賛同を得て、本日シンポジウム第一段階を開く運びになりました。委員会是最善をつくしたつもりですが、準備期間が短く、この種のシンポジウムへの経験も浅く、十分なことできませんでしたことを、おわびします。しかし私たちは、シンポジウムの国際的重要性については、十分に認識しています。このシンポジウムは原水爆の恐ろしさの実態を正しく世界に伝えることを最重要目的としています。核兵器の驚異に対する正しい認識が、核兵器廃

絶運動の基盤でなければなりません。また私たちはシンポジウムの成果が来年の国連軍縮特別総会にも大きい影響を及ぼすことを期待しています。これらの成否は、シンポジウムの企画者、指導者である皆さんの力に依存しています。明日から広島、長崎で実地視察が始まります。皆さんはこの視察で核兵器の実態について、多くの新発見をされるでしょう。日本はいま猛暑で、快適な季節ではありません。またすべてに慣習の異なるこの国で、ご不便も多いことと思ひます。準備委員会ではできるだけ皆さんのお力になりたいと考えています。どうか何事によらず、遠慮なくお申し付けください。最後に皆様の活動の成功と、ご健康を祈って、私の挨拶といたします。」

